

# 同期型オンライン国際協働型学習のインストラクショナル デザイン研究：「顔出し」が学生の認識に及ぼす影響

安西弥生

国際基督教大学/教育テスト研究センター

本研究では、オンライン国際協働型学習が、日本人大学生の認識にどのような影響を与えるのか、実験を実施した。オンライン国際協働型学習は英語では、Collaborative Online International Learning で、略して COIL と呼ばれている。日本の大学では全般的に、オンライン教育では学生の顔出しを強要してはいけないという方針があり、一方海外の学生は、顔出しをすることに抵抗がないという文化の差がある。そこで本研究では、オンライン国際協働型学習における学生の顔出し（ビデオオン）、顔出しなし（ビデオオフ）に着目をして二群に分けて、実験を行った。学習者の「英語を世界共通語」であること、「自己効力」、「オープンラーニング」の認識については、実験の事前と事後で学生の認識が有意に変化することが認められた。しかし顔出しをしているか、顔出しをしていないかでは、学生の認識に関しては、有意差が認められないことが明らかになった。つまり、学生の認識という観点では、顔出しの有無よりも、COIL型学習を経験するかしらないかが、学生の認識により影響を与えることが明らかになった。研究の結果は、COIL型学習のインストラクショナルデザインを実践する際に応用されることが期待できる。

キーワード：COIL型学習、同期型遠隔教育、英語教育、顔出し、ZOOM

謝辞 本研究の実験にあたり、教育テスト研究センターに支援をいただきましたことを深くお礼申し上げます。